



## 第58期 定時株主総会招集ご通知

日 時	2020年5月22日（金曜日）午前10時 （受付開始 午前9時）
場 所	新潟県燕市吉田西太田字潟向2084番地2 当社本社 大ホール（3階） （末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。）
決議事項	第1号議案 剰余金の処分の件 第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）3名選任の件 第3号議案 監査等委員である取締役3名選任の件 第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

ツインバード工業株式会社

証券コード 6897

2020年5月1日

株 主 各 位

新潟県燕市吉田西太田字潟向2084番地2

## ツインボード工業株式会社

代表取締役社長 野 水 重 明

### 第58期定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、当社第58期定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2020年5月21日（木曜日）午後5時30分までに到着するようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2020年5月22日（金曜日）午前10時  
（受付開始 午前9時）
2. 場 所 新潟県燕市吉田西太田字潟向2084番地2  
当社本社 大ホール（3階）  
（末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。）
3. 目的事項  
報告事項
  1. 第58期（2019年3月1日から2020年2月29日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査等委員会の連結計算書類監査結果報告の件
  2. 第58期（2019年3月1日から2020年2月29日まで）計算書類報告の件
- 決議事項
  - 第1号議案 剰余金の処分の件
  - 第2号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）3名選任の件
  - 第3号議案 監査等委員である取締役3名選任の件
  - 第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

以 上

~~~~~  
◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎本招集ご通知に添付すべき書類のうち、連結計算書類の「連結株主資本等変動計算書」及び「連結注記表」並びに計算書類の「株主資本等変動計算書」及び「個別注記表」につきましては、法令及び当社定款第15条に基づき、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載しておりますので、本招集ご通知の添付書類には記載しておりません。

なお、監査等委員会又は会計監査人が監査報告又は会計監査報告を作成する際に監査した連結計算書類及び計算書類は招集ご通知の添付書類に記載の各書類のほか、インターネット上の当社ウェブサイトに記載しております「連結株主資本等変動計算書」及び「連結注記表」並びに「株主資本等変動計算書」及び「個別注記表」となります。

◎株主総会参考書類並びに事業報告、連結計算書類及び計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイトに掲載させていただきます。

#### ◎新型コロナウイルスの感染拡大防止に対するご協力をお願い

新型コロナウイルスの感染が拡大しております。感染のリスクを避けるため、本年の当社株主総会につきましてははできる限り「議決権行使書による議決権の事前行使」をお願い申し上げます。

政府より「緊急事態宣言」が発令され、不要不急の外出やイベント・集会の自粛が要請されており、また、株主様の安全確保のため、本株主総会ご出席の要否については十分にお考えいただきたく、お願い申し上げます。

- 本株主総会会場において、感染予防のための措置をいくつか講ずる予定でございます。ご協力くださいますようお願い申し上げます。
- 今後の状況により、株主総会の運営に関して事前に株主様にご案内すべき事項が生じた場合は、当社ウェブサイトにおいてお知らせいたします。

#### ◎お土産配布の取り止めについて

事前の議決権行使を推奨しているおり、本年の当社株主総会では、ご出席の株主様へのお土産配布はいたしません。何卒ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

---

当社ウェブサイトアドレス <http://www.twinbird.jp/>

---

(添付書類)

## 事業報告

( 2019年3月1日から  
2020年2月29日まで )

### 1. 当社グループの現況に関する事項

#### (1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国の経済は、米中二国間の貿易問題の長期化や中国経済の減速など海外経済の不確実性に加え、消費税率引き上げ後の消費の減速懸念により、先行きは依然として不透明な状態で推移しました。さらに、年度末においては中国から始まった新型コロナウイルスの感染拡大が、国内外経済に様々な面で大きな影響を及ぼし始めました。

このような経済環境の中、当社グループの当連結会計年度における売上高は12,159百万円となり、消費税率引き上げ後の反動や、新型コロナウイルスの感染拡大により中国国内における製品製造の遅延が発生したものの、前期比533百万円の増収（増減率+4.6%）となりました。

家電量販市場では、前期発売を開始してラインナップを拡充した単独・少人数世帯向け冷凍冷蔵庫に加え、洗濯機や電子レンジ等が好調に推移し、また、ポイントサービス市場では全自動コーヒーマーカーなどが増収に寄与いたしました。

営業利益は178百万円となり前期比65百万円の増益、経常利益は66百万円となり前期比9百万円の増益となりました。前期から続く物流費用の高騰などの影響を受けたものの、増収効果や継続的な原価低減活動などにより営業利益の増益に貢献いたしました。

営業利益では増益となったものの、株式市場における株価低迷の影響を受け、投資有価証券評価損211百万円を計上したため、親会社株主に帰属する当期純損失は133百万円となりました。

営業品目別売上状況は次のとおりであります。

(単位：千円)

|     | 品 目 別         | 売 上 高      | 構 成 比 ( % ) |
|-----|---------------|------------|-------------|
| 製 品 | 照 明 器 具       | 277,273    | 2.28        |
|     | 調 理 家 電       | 3,431,617  | 28.23       |
|     | ク リ ー ナ ー     | 1,727,025  | 14.20       |
|     | 生 活 家 電       | 2,894,107  | 23.80       |
|     | 冷 蔵 庫         | 2,288,219  | 18.82       |
|     | A V 機 器       | 666,137    | 5.48        |
|     | 健 康 理 美 容 機 器 | 489,018    | 4.02        |
|     | そ の 他         | 385,689    | 3.17        |
| 合 計 |               | 12,159,089 | 100.00      |

(資産、負債及び純資産の状況)

当連結会計年度末における総資産は11,582百万円となり、前連結会計年度末より938百万円減少いたしました。たな卸資産管理の強化で運転資本が効率化したことから、商品及び製品が541百万円減少いたしました。また、有形固定資産については、金型投資などの減少によって前期末から235百万円減少いたしました。

資産の効率化を反映して、負債は5,259百万円となり、前連結会計年度末より756百万円減少いたしました。長期借入金が413百万円の減少、短期借入金400百万円減少しております。

純資産は6,322百万円となり、前連結会計年度末より182百万円減少いたしました。利益剰余金が232百万円の減少、その他有価証券評価差額金が121百万円増加しております。

自己資本比率は総資産の圧縮効果により54.6%となり、前連結会計年度末比で+2.7ポイント上昇し、財務体質は改善しております。

(キャッシュ・フローの状況)

営業活動によるキャッシュ・フローは前期の1百万円の支出から1,535百万円の収入となり、前期比1,536百万円の増加と大幅に改善いたしました。これは、当期の「たな卸資産の増減」が553百万円の収入となり、前期の同640百万円の支出から大幅に改善したことが寄与いたしました。

投資活動によるキャッシュ・フローは115百万円の支出となり、前期比436百万円の支出減少となりました。商品開発及び金型投資の効率化によって有形固定資産投資が前期比328百万円減少しております。

財務活動によるキャッシュ・フローは1,163百万円の支出となり、前期比1,117百万円の支出増加となりました。有利子負債の返済により、財務体質を強化いたしました。また現金及び現金同等物の期末残高は627百万円となり、前期末から261百万円の増加となりました。

(利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当)

当社は、企業価値の向上により株主価値を高めることを経営の重要課題として認識しており、業績を向上させ財務体質の強化を図ることにより安定した配当をおこなうことを基本方針としております。

当期における期末配当につきましては、当初計画したとおり1株当たり8円を配当したいと存じます。これにより年間配当は1株当たり11円となります。

次期におきましても、中間配当を3円、期末配当を8円とし、年間11円の配当(配当性向は164.9%)を計画しております。

**(2) 設備投資の状況**

当連結会計年度における設備投資の状況につきましては、新製品開発に伴う金型投資等に227百万円の投資をおこないました。

**(3) 資金調達状況**

該当事項はありません。

**(4) 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況**

該当事項はありません。

**(5) 他の会社の事業の譲受けの状況**

該当事項はありません。

**(6) 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況**

該当事項はありません。

**(7) 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況**

該当事項はありません。

### (8) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

#### ① 当社グループの直前3事業年度の財産及び損益の状況

| 区 分                                     | 第55期<br>(2016年度) | 第56期<br>(2017年度) | 第57期<br>(2018年度) | 第58期(当連結会計年度)<br>(2019年度) |
|-----------------------------------------|------------------|------------------|------------------|---------------------------|
| 売 上 高(千円)                               | 13,406,362       | 13,164,010       | 11,625,804       | 12,159,089                |
| 経 常 利 益(千円)                             | 256,322          | 105,227          | 57,036           | 66,589                    |
| 親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円) | 177,435          | 108,514          | 18,940           | △133,882                  |
| 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)(円)            | 20.34            | 12.43            | 2.17             | △15.32                    |
| 総 資 産(千円)                               | 12,518,161       | 12,557,320       | 12,521,320       | 11,582,419                |
| 純 資 産(千円)                               | 6,485,625        | 6,554,633        | 6,504,588        | 6,322,483                 |
| 1株当たり純資産(円)                             | 743.62           | 750.18           | 744.46           | 723.61                    |

(注) 「1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失」は自己株式(役員向け株式交付信託が保有する当社株式を含む。)を控除した期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産は、自己株式(役員向け株式交付信託が保有する当社株式を含む。)を控除した期末発行済株式総数により算出しております。

#### ② 当社の直前3事業年度の財産及び損益の状況

| 区 分                          | 第55期<br>(2016年度) | 第56期<br>(2017年度) | 第57期<br>(2018年度) | 第58期(当事業年度)<br>(2019年度) |
|------------------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------------|
| 売 上 高(千円)                    | 13,349,969       | 13,115,457       | 11,641,055       | 12,070,386              |
| 経 常 利 益(千円)                  | 303,440          | 101,924          | 75,398           | 55,811                  |
| 当期純利益又は当期純損失(△)(千円)          | 227,492          | 105,460          | 30,745           | △138,813                |
| 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)(円) | 26.08            | 12.08            | 3.52             | △15.89                  |
| 総 資 産(千円)                    | 12,545,250       | 12,601,893       | 12,573,031       | 11,639,923              |
| 純 資 産(千円)                    | 6,572,187        | 6,616,126        | 6,578,169        | 6,409,472               |
| 1株当たり純資産(円)                  | 753.54           | 757.22           | 752.88           | 733.57                  |

(注) 「1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失」は自己株式(役員向け株式交付信託が保有する当社株式を含む。)を控除した期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産は、自己株式(役員向け株式交付信託が保有する当社株式を含む。)を控除した期末発行済株式総数により算出しております。

## (9) 重要な親会社及び子会社の状況

### ① 親会社の状況

該当事項はありません。

### ② 重要な子会社の状況

| 会社名          | 資本金    | 出資比率 | 主要な事業内容             |
|--------------|--------|------|---------------------|
| 双鳥電器(深圳)有限公司 | 200百万円 | 100% | 中国国内における家庭用電気機器等の販売 |
| 株式会社マイイツ     | 10百万円  | 100% | 家電製品の企画・販売          |

## (10) 対処すべき課題

当社グループは、ステークホルダーズの皆様に期待される会社になるため、経営理念に基づき新たな企業ビジョン「お客様満足No.1」を掲げ、お客様のお声に真摯に耳を傾け、新潟県燕三条地域の職人気質のモノづくりで、お客様にご満足いただける商品・サービスをお届けし続ける企業を目指します。

本年4月に、2020年度から2022年度までの新中期経営計画を公表いたしました。当計画におきましては、企業ビジョン「お客様満足No.1」の実現に向けて、TWINBIRDブランド価値向上、経営品質の向上、事業モデルの変革を柱とする取り組みを進めてまいります。

### ① TWINBIRDブランド価値向上

- ・ロイヤルカスタマーの創造に向けて、商品の良さを実感してもらい、お客様との繋がりを維持しながらリピート購入していただき、当社が1人のお客様にもたらす価値の最大化を図ってまいります。
- ・伸びる市場である単独・少人数世帯をターゲットに商品ジャンル毎のシリーズ化と生活シーン毎のシリーズ化を進め、ターゲット市場での存在感を高めてまいります。
- ・商品開発においては、お客様起点のこだわりの感動体験を生み出す商品やサービスを提供できる事業体制を構築します。

### ② 経営品質の向上

- ・取扱商品を整理し、高利益率商品の販売量を最大化することで、商品ポートフォリオの最適化を進めます。さらに各機能における波及効果を取り込み、収益性の向上を目指します。

- ・新商品開発ステップに品質・原価の作り込みプロセスを追加し、継続的に改善します。
- ・お客様の購買情報（実売）を起点に、販売計画及び生産計画を立案します。また、パートナー工場からお客様まで、サプライチェーン全体の状況を見える化することで、社内外情報の一元管理をおこない、サプライチェーンの最適化を図ります。
- ・迅速な業績把握・情報把握と意思決定をサポートするため、IT基盤「ツインバードプラットフォーム」を構築します。
- ・人材ビジョンに基づき働き甲斐のある職場を構築し、社員の「幸福度」を高めてまいります。そのため、多様な価値観を尊重し、個々の働き方に対応した役割を設定し、人事制度運用・タレント開発・キャリア支援を実施します。

### ③ 事業モデルの変革

- ・海外事業に関しては、当社のネットワークを活用し、ポテンシャルのあるアジア現地パートナーを開拓します。当社の特徴を強く反映した付加価値商品と現地のお客様ニーズを融合し、当社ならではの商品展開を実践します。パートナーとの協業を通じて販路拡大とTWINBIRDブランドの構築を進めます。
- ・新冷却技術FPSC（フリー・ピストン・スターリング・クーラー）関連事業に関しては、セールスエンジニアリングを強化し、注力4分野（化学エネルギー・計測環境・医薬バイオ・食品流通）におけるお客様との取引深耕及び成功事例の横展開によって市場シェアの拡大を図ります。

これら主要戦略を実行することで、収益性と資産効率を向上させ、キャッシュフローの創出力を高め、財務体質を強化することに注力してまいります。

(11) 主要な事業内容（2020年2月29日現在）

当社は家電製品の製造・販売を主力に、FPSC（フリー・ピストン・スターリング・クーラー）とその応用製品の製造・販売をおこなっております。

(12) 主要な営業所及び工場（2020年2月29日現在）

① 当社

|             |                   |
|-------------|-------------------|
| 本 社 ・ 工 場   | 新 潟 県 燕 市         |
| 東 京 支 社     | 東 京 都 中 央 区       |
| 大 阪 支 店     | 大 阪 府 大 阪 市 中 央 区 |
| 名 古 屋 営 業 所 | 愛 知 県 名 古 屋 市 中 区 |
| 福 岡 営 業 所   | 福 岡 県 福 岡 市 博 多 区 |

② 子会社

|                         |                                 |
|-------------------------|---------------------------------|
| 双 鳥 電 器 （ 深 圳 ） 有 限 公 司 | 中 華 人 民 共 和 国 広 東 省 深 圳 市 宝 安 区 |
| 株 式 会 社 マ イ ン ツ         | 東 京 都 中 央 区                     |

(13) 従業員の状況 (2020年2月29日現在)

① 当社グループの従業員の状況

| 従業員数     | 前連結会計年度末比増減 |
|----------|-------------|
| 303(29)名 | 増減なし(3名増)   |

(注) パート及び嘱託社員などの臨時従業員については( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

② 当社の従業員の状況

| 従業員数     | 前事業年度末比増減 | 平均年齢  | 平均勤続年数 |
|----------|-----------|-------|--------|
| 296(29)名 | 1名増(3名増)  | 45.9歳 | 20.9年  |

(注) 1. 従業員数には、当社から社外への出向者(1名)を除いております。

2. パート及び嘱託社員などの臨時従業員については( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(14) 主要な借入先の状況 (2020年2月29日現在)

| 借入先          | 借入額         |
|--------------|-------------|
| 株式会社第四銀行     | 1,928,210千円 |
| 株式会社三井住友銀行   | 702,652     |
| 株式会社秋田銀行     | 331,698     |
| 株式会社日本政策投資銀行 | 224,050     |
| 株式会社商工組合中央金庫 | 223,500     |
| 株式会社三菱UFJ銀行  | 223,360     |
| 三井住友信託銀行株式会社 | 15,034      |

(15) その他当社グループの現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

## 2. 会社の株式に関する事項（2020年2月29日現在）

- (1) 発行可能株式総数 34,000,000株  
(2) 発行済株式の総数 9,030,000株(自己株式 28,292株を含む。)  
(3) 株主数 3,252名  
(4) 大株主(上位10名)

| 株主名                                  | 持株数     | 持株比率   |
|--------------------------------------|---------|--------|
| 株式会社双栄                               | 1,190千株 | 13.22% |
| E H 株式会社                             | 765     | 8.50   |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)            | 601     | 6.68   |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(リテール信託口820079267) | 554     | 6.15   |
| ツインバード従業員持株会                         | 476     | 5.29   |
| 株式会社第四銀行                             | 436     | 4.84   |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)              | 285     | 3.17   |
| 株式会社日本政策投資銀行                         | 276     | 3.07   |
| 野水重勝                                 | 270     | 3.01   |
| 野水重明                                 | 269     | 2.99   |

(注) 持株比率は自己株式(28,292株)を控除して計算しております。

## 3. 会社の新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4. 会社役員に関する事項

### (1) 取締役の氏名等 (2020年2月29日現在)

| 当社における地位      | 氏名   | 担当及び重要な兼職の状況                                                                 |
|---------------|------|------------------------------------------------------------------------------|
| 代表取締役社長       | 野水重明 | 双鳥電器(深圳)有限公司 董事長<br>株式会社双栄 代表取締役                                             |
| 専務取締役         | 佐藤勉  | 開発生産本部本部長 兼 製造部部长<br>双鳥電器(深圳)有限公司 董事                                         |
| 取締役           | 浜野整  | 品質改革担当<br>株式会社マインツ 取締役                                                       |
| 社外取締役         | 加藤善孝 | 株式会社CroweProC.A 代表取締役社長<br>アルフレッサホールディングス株式会社 社外監査役                          |
| 社外取締役 (監査等委員) | 駒宮史博 | 双鳥電器(深圳)有限公司 監事<br>株式会社マインツ 監査役<br>駒宮法律事務所 所長<br>新潟大学 名誉教授<br>青山学院大学大学院 特任教授 |
| 社外取締役 (監査等委員) | 島田正純 | 島田印刷紙工株式会社 代表取締役                                                             |
| 社外取締役 (監査等委員) | 小村隆  | 小村法律事務所 所長                                                                   |

- (注) 1. 社外取締役加藤善孝氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。
2. 社外取締役 (監査等委員) 駒宮史博氏は、弁護士の資格を有しており、また、大学等における研究及び教授職等の経験を通じて、法律・税務に関する相当程度の知見を有しております。
3. 社外取締役 (監査等委員) 小村隆氏は、弁護士の資格を有しており、企業法務及び法律に関する相当程度の知見を有しております。
4. 当社は加藤善孝氏、駒宮史博氏、島田正純氏及び小村隆氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としております。
5. 当事業年度中の取締役 (監査等委員を除く。) 及び監査等委員である取締役の異動は次のとおりであります。
- ・2019年5月29日開催の第57期定時株主総会終結の時をもって、駒宮史博氏は任期満了により取締役 (監査等委員を除く。) を退任し、監査等委員である取締役に就任いたしました。
  - ・2019年5月29日開催の第57期定時株主総会終結の時をもって、監査等委員である取締役伊藤健一氏及び近野茂氏は辞任いたしました。
6. 監査等委員会設置会社のもと、監査等委員会が主体となり内部統制システムを通じた組織的な監査を実施しているため、必ずしも常勤者の選定を必要としないことから、常勤の監査等委員を選定しておりません。
7. 当社は社外取締役である駒宮史博氏、島田正純氏及び小村隆氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

8. 当社は執行役員制度を導入しております。2020年2月29日現在の執行役員は以下のとおりであります。

| 当社における地位 | 氏名   | 担当業務                                                                                                               |
|----------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 執行役員     | 小林和則 | 経営企画本部本部長 兼 経営企画部部長<br>兼 ブランド戦略部副部长 兼 管理本部副部长<br>兼 サプライチェーンマネジメント部部長<br>双鳥電器(深圳)有限公司 董事 兼 副總經理<br>株式会社マインツ 代表取締役社長 |
| 執行役員     | 高木哲也 | 管理本部本部長 兼 管理部部長<br>兼 財務経理部部長 兼 業務改革部部長                                                                             |
| 執行役員     | 渡邊英一 | 開発生産本部副本部長<br>兼 プロダクトディレクション部部長                                                                                    |
| 執行役員     | 文園剛之 | 営業本部本部長 兼 東京支社支社長                                                                                                  |
| 執行役員     | 浅見孝幸 | ブランド戦略部部長 兼 営業本部副本部長 兼<br>営業企画部部長 兼 ソリューション営業部部長<br>兼 海外営業部部長 兼 S C営業部部長                                           |
| 執行役員     | 宮井剛  | S C戦略部部長                                                                                                           |
| 執行役員     | 河村吉章 | 開発生産本部副本部長 兼 商品開発部部長                                                                                               |

## (2) 取締役の報酬等の総額

当事業年度に係る報酬等の総額

| 区分                          | 支給人員      | 支給額                 |
|-----------------------------|-----------|---------------------|
| 取締役（監査等委員を除く。）<br>（うち社外取締役） | 5名<br>(2) | 87,854千円<br>(3,600) |
| 監査等委員である取締役<br>（うち社外取締役）    | 5<br>(4)  | 12,750<br>(8,550)   |
| 合計                          | 10        | 100,604             |

- (注) 1. 上記には、2019年5月29日開催の第57期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役（監査等委員である取締役を除く。）1名（うち社外取締役1名）及び監査等委員である取締役2名（うち社外取締役1名）を含んでおります。
2. 取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬等の額は、2016年5月27日開催の第54期定時株主総会において年額168百万円以内（ただし、従業員分給与は含まない。）と決議いただいております。
3. 監査等委員である取締役の報酬等の額は、2016年5月27日開催の第54期定時株主総会において年額25百万円以内と決議いただいております。
4. 上記報酬等の額には、2016年5月27日開催の第54期定時株主総会及び2018年5月29日開催の第56期定時株主総会において決議いただいた、取締役に対する業績連動型株式報酬制度に基づき費用計上した額10,560千円が含まれております。なお、本制度につきましては、2.に記載の報酬とは別枠で決議いただいております。

## ＜ご参考＞ 役員報酬決定の方針と手続き

当社の常勤取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬は、役位に応じた基本報酬と役員賞与及び当社の中長期的な業績の向上と企業価値向上への貢献意欲をさらに高める報酬体系として業績連動型株式報酬から構成されます。賞与については、経済情勢や当社業績、他社水準、従業員の賞与水準等を踏まえて検討しています。

社外取締役・監査等委員である取締役は、業務執行から独立した立場で経営の監督・助言をおこなう役割のため、職責、他社の動向を反映させた固定報酬としております。

決定するにあたっての手続きとしては、株主総会で承認された総額の範囲内で、独立社外取締役を過半数とする任意の指名・報酬委員会に諮問し、監査等委員会の同意を得、独立性・客観性を確保した上で取締役会にて決定します。株式報酬は、株式交付信託を用いて役位に基づき算出された当社株式を退任時に支給します。

監査等委員である取締役の報酬・賞与は、株主総会で承認された総額の範囲内で、監査等委員である取締役の協議により決定します。

### (3) 社外取締役に関する事項

- ① 他の法人等の業務執行者としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係
  - ・社外取締役加藤善孝氏は、株式会社Crowe P r o C . Aの代表取締役社長であります。当社と兼職先との間には特別の関係はありません。
  - ・社外取締役（監査等委員）駒宮史博氏は、駒宮法律税務事務所所長であります。また、新潟大学名誉教授、青山学院大学大学院特任教授であります。当社と各兼職先との間には特別の関係はありません。
  - ・社外取締役（監査等委員）島田正純氏は、島田印刷紙工株式会社の代表取締役であります。なお、当社は島田印刷紙工株式会社との間に材料仕入等の取引関係がありますが、その取引金額は僅少であります。
  - ・社外取締役（監査等委員）小村隆氏は、小村法律事務所所長であります。当社と兼職先との間には特別の関係はありません。
- ② 他の法人等の社外取締役等としての重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係
  - ・社外取締役加藤善孝氏は、アルフレッサホールディングス株式会社の社外監査役であります。当社と兼職先との間には特別の関係はありません。

③ 当事業年度における主な活動状況

|                  |      | 活 動 状 況                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 社外取締役            | 加藤善孝 | 2019年5月29日就任以降、当事業年度に開催された取締役会13回の全てに出席いたしました。<br>公認会計士としての専門的見地、及びこれまで培ってきた経済全般と会社経営に関わる卓越した見識をもとに意見を述べるなど、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言、提言をおこなっております。                                                                                                                      |
| 社外取締役<br>(監査等委員) | 駒宮史博 | 当事業年度において、2019年5月29日に取締役（監査等委員を除く。）を退任するまでに開催された取締役会3回の全てに出席いたしました。<br>また、2019年5月29日に監査等委員である取締役に就任以降、当事業年度に開催された取締役会13回のうち12回に、また、監査等委員会9回のうち8回に出席いたしました。<br>弁護士並びに税務の専門家としての見地から取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言をおこなっております。また監査等委員会において、議長を務めるとともに適宜必要な発言をおこなっております。 |
| 社外取締役<br>(監査等委員) | 島田正純 | 当事業年度に開催された取締役会16回の全てに、また、監査等委員会12回の全てに出席いたしました。<br>会社経営者としての長年の豊富な経験から、取締役会において議案審議等に必要な発言をおこなっており、また監査等委員会において、適宜必要な発言をおこなっております。                                                                                                                                        |
| 社外取締役<br>(監査等委員) | 小村隆  | 2019年5月29日就任以降、当事業年度に開催された取締役会13回の全てに、また、監査等委員会9回の全てに出席いたしました。<br>弁護士としての専門的見地から、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言をおこなっております。また監査等委員会において、適宜必要な発言をおこなっております。                                                                                                            |

## 5. 会計監査人の状況

(1) 会計監査人の名称 太陽有限責任監査法人

### (2) 会計監査人の報酬等の額

|                                     | 支 払 額    |
|-------------------------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額                 | 19,000千円 |
| 当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 | 19,000千円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証をおこなったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。
3. 当社の海外子会社については、当社の会計監査人以外の公認会計士又は監査法人（外国におけるこれらの資格に相当する資格を有する者を含む。）の監査を受けております。

### (3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### (4) 会計監査人の解任又は不再任の決定方針

監査等委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査等委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

## 6. 業務の適正を確保するための体制

- (1) 取締役・執行役員・従業員（以下、全役職員といいます。）の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - ① 取締役会は、コンプライアンスの推進を統括し、会社法その他の法令に則った会社運営をおこなう旨の基本方針を決定します。
  - ② コンプライアンス委員会は、関連する規程、マニュアル等を明文化し、全役職員への徹底を図ります。
  - ③ コンプライアンスの維持については、取締役・執行役員が自己の分掌範囲について責任を持っておこない、各部門長は、担当業務に適用される法令とその改正状況を把握するとともに、関連部門へ周知することにより、法令遵守の徹底を図ります。
  - ④ 監査等委員会は、内部監査部と連携して独立の立場から当社全体のコンプライアンスの状況について監査します。
  - ⑤ コンプライアンス委員会を、法令上疑義のある行為等について全役職員が直接情報提供する窓口として置き、運用します。
- (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制並びに職務の執行の効率性が確保される体制
  - ① 取締役会を原則として毎月1回開催し、重要事項の決定及び取締役相互の業務執行状況の確認をおこないます。また、取締役会の機能をより強化し、経営効率を向上させるため、経営会議を開催し、業務執行に関する意思決定を機動的におこないます。業務執行機能を強化するため執行役員制度を採用するほか、取締役・執行役員・本部長等で構成される執行役員会議を毎月開催し、経営課題の協議・決定・報告をおこなっております。いずれもテーマに応じて検討会を実施しております。
  - ② 取締役会その他重要な会議の議事録や稟議書類、財務に関する重要な情報等の保存対象書類、保存期間、検索のための分類方法及び保存場所等を定める文書管理規程を作成し、取締役・監査等委員・執行役員がこの規程に基づき、必要な文書等を容易に閲覧できるようにします。
  - ③ 業務分掌規程及び職務権限明細表に則り、全役職員の職務の執行の効率性を確保します。
  - ④ 業務の簡素化、ITの適切な利用を通じ、業務の効率化を推進します。

(3) 会社の重大な損失の発生を未然に防止するためのリスク管理体制

- ① 品質、災害、環境、情報セキュリティ等経営に重大な影響を及ぼす不測事態による損失を防止するために、リスク管理に関する規程や不測事態対応マニュアルを整備するとともに、それらについて全役職員に対し、教育研修を実施し、予防体制を確立します。
- ② 全役職員は、会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実、不正行為、法令・定款に違反する重大な事実が発生する可能性が生じた場合、もしくは発生した場合は、内部監査部及び関連部署へ報告することとし、内部監査部は監査等委員会に報告します。
- ③ 重要な勘定科目や取引に関連する業務フローを見直し、問題点（リスク）を洗い出し、内部牽制システムを構築する等、コントロールの対策をとります。

(4) 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

- ① 関係会社の経営については、その自主性を尊重しつつ、業務の状況について毎月報告を受ける等を内容とする関係会社管理規程を定め、グループ全体での適切な情報の共有と意思疎通を図り、経営の適正性を確保します。
- ② 当社は、月1回、当社及び当社子会社の取締役・執行役員・本部長等が出席する執行役員会議を開催し、当社子会社において重要な事象が発生した場合には、子会社に対し当該執行役員会議における報告を義務付けています。
- ③ 当社は、執行役員会議を通じ当社グループ全体のリスクを網羅的・統括的に管理しています。
- ④ 当社は、当社グループにおける職務分掌、指揮命令系統、権限及び意思決定その他の組織に関する基準を定め、子会社にこれに準拠した体制を構築させます。
- ⑤ 当社は、コンプライアンスに関連する規程、マニュアル等を明文化し、当社グループのすべての全役職員に周知徹底します。

(5) 監査等委員会の職務を補助すべき全役職員

監査等委員会は、内部監査部の担当者に監査業務に必要な事項を命ずることができるものとし、監査等委員会より監査業務に必要な命令を受けた従業員はその命令に関して、取締役（監査等委員である取締役を除く。）・執行役員等の指揮命令を受けないものとします。

(6) 全役職員が監査等委員会に報告をするための体制その他の監査等委員会への報告に関する体制及びその他監査等委員会の監査が実効的におこなわれることを確保するための体制

- ① 監査等委員会を構成する監査等委員は、本社その他の拠点並びに関係会社に対し、計画的に実地監査に赴き、現状の把握、問題点の指摘等を実施しており、稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて全役職員にその説明を求めます。
- ② 当社グループの全役職員は、法令等の違反行為等、当社又は当社の子会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実については、これを発見次第、直ちに当社の監査等委員会に対して報告をおこなうものとします。
- ③ 当社は、当社の監査等委員会へ報告をおこなった当社グループの全役職員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いをおこなうことを禁止しその旨を当社グループの全役職員に周知徹底します。
- ④ 当社は、監査等委員の職務の執行について生ずる費用等を支弁するため、毎年、一定額の予算を設けています。
- ⑤ 監査等委員会を構成する監査等委員は、取締役会等の重要な会議に出席し、重要な意思決定過程及び取締役の職務の執行状況を監査します。

(7) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

① 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社は反社会的勢力との関係は一切持たないことを基本方針としております。市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力への対応については、コンプライアンスの一環として取り組んでおり、組織として毅然とした対応を取ることを行動規範に定め、会社の重点施策として位置付けております。

② 反社会的勢力排除に向けた整備状況

対応統括部署を定め、反社会的勢力による不当要求、組織暴力及び犯罪行為に対しては、直ちに報告・相談する体制を整備しております。また警察等が主催する連絡会に加入するなど平素より外部の専門機関と連携を深め、反社会的勢力への対応に関する指導を仰ぎ、最新情報を共有することにより被害の未然防止に向けた活動を推進しております。

《業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要》

当社は、上記に掲げた内部統制システムの整備をしておりますが、その基本方針に基づき、以下の具体的な取り組みをおこなっております。

- ① 当社は、「コンプライアンス規程」を制定し、周知してきましたが、業務を遂行するうえで特に重要と思われる問題に関して注意を要する事項をまとめた「コンプライアンスマニュアル」を制定しております。またコンプライアンスに対する意識の向上を図るため、全役職員を対象に定期的にコンプライアンス研修を実施しております。
- ② 取締役会の議事録、稟議書、会計書類その他の業務執行に関する文書について、文書管理規程その他関連する規程に基づき、その種類毎に適切な保存期間を設定のうえ、適切に管理・保管しています。これらの文書については、すべての取締役・監査等委員・執行役員が必要に応じて閲覧できるようにしています。
- ③ 毎月開催される執行役員会議において、各部門におけるリスクを報告し、全社で情報を共有し、対応しております。いずれもテーマに応じて検討会を実施しております。
- ④ 監査等委員会の監査が実効的におこなわれるために、監査等委員会は内部監査部と連携し、監査を実施しております。必要に応じ他の従業員に調査を依頼し、その報告を受けております。

## 7. 会社の支配に関する基本方針

該当事項はありません。

# 連 結 貸 借 対 照 表

(2020年2月29日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部         |                    | 負 債 の 部                |                    |
|-----------------|--------------------|------------------------|--------------------|
| 科 目             | 金 額                | 科 目                    | 金 額                |
| <b>流 動 資 産</b>  | <b>(6,819,201)</b> | <b>流 動 負 債</b>         | <b>(3,028,757)</b> |
| 現金及び預金          | 1,066,255          | 支払手形及び買掛金              | 205,106            |
| 受取手形及び売掛金       | 2,402,568          | 短期借入金                  | 1,100,000          |
| 商品及び製品          | 2,542,768          | 一年内返済予定の長期借入金          | 961,504            |
| 仕掛品             | 309,782            | リース債務                  | 114,005            |
| 原材料及び貯蔵品        | 292,751            | 未払法人税等                 | 21,649             |
| その他             | 211,472            | 未払消費税等                 | 179,285            |
| 貸倒引当金           | △6,396             | 賞与引当金                  | 49,354             |
| <b>固 定 資 産</b>  | <b>(4,763,217)</b> | 株主優待引当金                | 1,738              |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>(3,822,204)</b> | 製品補修対策引当金              | 6,191              |
| 建物及び構築物         | 1,209,182          | その他                    | 389,921            |
| 機械及び装置          | 46,534             | <b>固 定 負 債</b>         | <b>(2,231,179)</b> |
| 車両運搬具           | 3,848              | 長期借入金                  | 1,587,000          |
| 金型              | 190,769            | リース債務                  | 345,475            |
| 工具、器具及び備品       | 78,775             | 退職給付に係る負債              | 204,301            |
| 土地              | 2,056,499          | 役員株式給付引当金              | 38,880             |
| リース資産           | 235,026            | 資産除去債務                 | 20,100             |
| 建設仮勘定           | 1,567              | その他                    | 35,421             |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>(296,220)</b>   | <b>負 債 合 計</b>         | <b>5,259,936</b>   |
| リース資産           | 255,005            | <b>純 資 産 の 部</b>       |                    |
| その他             | 41,215             | <b>株 主 資 本</b>         | <b>(6,335,457)</b> |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>(644,792)</b>   | 資本金                    | 1,742,400          |
| 投資有価証券          | 431,424            | 資本剰余金                  | 1,834,238          |
| 繰延税金資産          | 149,476            | 利益剰余金                  | 2,877,165          |
| その他             | 82,980             | 自己株式                   | △118,345           |
| 貸倒引当金           | △19,088            | その他の包括利益累計額            | (△12,974)          |
| <b>資 産 合 計</b>  | <b>11,582,419</b>  | その他有価証券評価差額金           | △62,570            |
|                 |                    | 繰延ヘッジ損益                | 42,656             |
|                 |                    | 為替換算調整勘定               | 29,779             |
|                 |                    | 退職給付に係る調整累計額           | △22,839            |
|                 |                    | <b>純 資 産 合 計</b>       | <b>6,322,483</b>   |
|                 |                    | <b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b> | <b>11,582,419</b>  |

# 連 結 損 益 計 算 書

(2019年3月1日から)  
(2020年2月29日まで)

(単位：千円)

| 科 目                           | 金 額        |
|-------------------------------|------------|
| 売 上 高                         | 12,159,089 |
| 売 上 原 価                       | 8,653,625  |
| 売 上 総 利 益                     | 3,505,463  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費           | 3,326,714  |
| 営 業 利 益                       | 178,749    |
| 営 業 外 収 益                     | 28,649     |
| 受 取 利 息                       | 217        |
| 受 取 配 当 金                     | 9,149      |
| 業 務 受 託 料                     | 2,200      |
| そ の 他                         | 17,082     |
| 営 業 外 費 用                     | 140,809    |
| 支 払 利 息                       | 22,143     |
| 売 上 割 引                       | 112,877    |
| 為 替 差 損                       | 3,672      |
| そ の 他                         | 2,116      |
| 経 常 利 益                       | 66,589     |
| 特 別 損 失                       | 231,310    |
| 固 定 資 産 処 分 損                 | 17,304     |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損             | 211,915    |
| そ の 他                         | 2,090      |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 損 失         | △164,721   |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税       | 3,620      |
| 法 人 税 等 調 整 額                 | △34,459    |
| 当 期 純 損 失                     | △133,882   |
| 親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 損 失 | △133,882   |

# 貸借対照表

(2020年2月29日現在)

(単位：千円)

| 資 産 の 部         |                    | 負 債 の 部         |                    |
|-----------------|--------------------|-----------------|--------------------|
| 科 目             | 金 額                | 科 目             | 金 額                |
| <b>流動資産</b>     | <b>(6,757,726)</b> | <b>流動負債</b>     | <b>(3,032,321)</b> |
| 現金及び預金          | 907,271            | 買掛金             | 203,335            |
| 受取手形            | 176,704            | 短期借入金           | 1,100,000          |
| 売掛金             | 2,379,417          | 一年内返済予定の長期借入金   | 961,504            |
| 商品及び製品          | 2,483,909          | リース債務           | 113,385            |
| 仕掛品             | 309,782            | 未払金             | 254,837            |
| 原材料及び貯蔵品        | 292,751            | 未払費用            | 66,902             |
| 前払費用            | 45,018             | 未払法人税等          | 21,579             |
| 未収入金            | 107,463            | 未払消費税等          | 179,285            |
| その他             | 61,803             | 賞与引当金           | 49,354             |
| 貸倒引当金           | △6,396             | 株主優待引当金         | 1,738              |
| <b>固定資産</b>     | <b>(4,882,196)</b> | 製品補修対策引当金       | 6,191              |
| <b>有形固定資産</b>   | <b>(3,822,146)</b> | その他             | 74,207             |
| 建物              | 1,184,605          | <b>固定負債</b>     | <b>(2,198,129)</b> |
| 構築物             | 24,577             | 長期借入金           | 1,587,000          |
| 機械及び装置          | 46,534             | リース債務           | 345,269            |
| 車両運搬具           | 3,848              | 退職給付引当金         | 171,458            |
| 金型              | 190,769            | 役員株式給付引当金       | 38,880             |
| 工具、器具及び備品       | 78,717             | 資産除去債務          | 20,100             |
| 土地              | 2,056,499          | その他             | 35,421             |
| リース資産           | 235,026            | <b>負債合計</b>     | <b>5,230,451</b>   |
| 建設仮勘定           | 1,567              | <b>純資産の部</b>    |                    |
| <b>無形固定資産</b>   | <b>(295,103)</b>   | <b>株主資本</b>     | <b>(6,429,386)</b> |
| 借地権             | 4,650              | 資本金             | (1,742,400)        |
| ソフトウェア          | 27,529             | 資本剰余金           | (1,834,238)        |
| リース資産           | 254,240            | 資本準備金           | 1,748,600          |
| その他             | 8,682              | その他資本剰余金        | 85,638             |
| <b>投資その他の資産</b> | <b>(764,947)</b>   | <b>利益剰余金</b>    | <b>(2,971,094)</b> |
| 投資有価証券          | 431,424            | その他利益剰余金        | 2,971,094          |
| 関係会社株式          | 134,158            | 繰越利益剰余金         | 2,971,094          |
| 繰延税金資産          | 137,233            | <b>自己株式</b>     | <b>(△118,345)</b>  |
| その他             | 81,218             | <b>評価・換算差額等</b> | <b>(△19,914)</b>   |
| 貸倒引当金           | △19,088            | その他有価証券評価差額金    | △62,570            |
|                 |                    | 繰延ヘッジ損益         | 42,656             |
| <b>資産合計</b>     | <b>11,639,923</b>  | <b>純資産合計</b>    | <b>6,409,472</b>   |
|                 |                    | <b>負債・純資産合計</b> | <b>11,639,923</b>  |

# 損 益 計 算 書

(2019年3月1日から)  
(2020年2月29日まで)

(単位：千円)

| 科 目                     | 金 額        |
|-------------------------|------------|
| 売 上 高                   | 12,070,386 |
| 売 上 原 価                 | 8,623,539  |
| 売 上 総 利 益               | 3,446,846  |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費     | 3,279,444  |
| 営 業 利 益                 | 167,402    |
| 営 業 外 収 益               | 29,112     |
| 受 取 配 当 金               | 9,149      |
| 業 務 受 託 料               | 2,200      |
| そ の 他                   | 17,763     |
| 営 業 外 費 用               | 140,703    |
| 支 払 利 息                 | 22,143     |
| 売 上 割 引                 | 112,519    |
| 為 替 差 損                 | 3,672      |
| そ の 他                   | 2,367      |
| 経 常 利 益                 | 55,811     |
| 特 別 損 失                 | 231,183    |
| 固 定 資 産 処 分 損           | 17,178     |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損       | 211,915    |
| そ の 他                   | 2,090      |
| 税 引 前 当 期 純 損 失         | △175,372   |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 | 3,490      |
| 法 人 税 等 調 整 額           | △40,049    |
| 当 期 純 損 失               | △138,813   |

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2020年4月16日

ツインバード工業株式会社  
取締役会 御中

### 太陽有限責任監査法人

|                    |       |         |
|--------------------|-------|---------|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 須永 真樹 ㊞ |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 藤本 浩巳 ㊞ |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 丸田 力也 ㊞ |

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、ツインバード工業株式会社2019年3月1日から2020年2月29日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ツインバード工業株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

2020年4月16日

ツインバード工業株式会社  
取締役会 御中

### 太陽有限責任監査法人

|                    |       |    |    |   |
|--------------------|-------|----|----|---|
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 須永 | 真樹 | ㊞ |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 藤本 | 浩巳 | ㊞ |
| 指定有限責任社員<br>業務執行社員 | 公認会計士 | 丸田 | 力也 | ㊞ |

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、ツインバード工業株式会社の2019年3月1日から2020年2月29日までの第58期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査等委員会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2019年3月1日から2020年2月29日までの第58期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号ロ及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査しました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人 太陽有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人 太陽有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2020年4月22日

ツインバード工業株式会社 監査等委員会

監査等委員 駒 宮 史 博 ㊞

監査等委員 島 田 正 純 ㊞

監査等委員 小 村 隆 ㊞

(注) 監査等委員 駒宮史博、島田正純及び小村隆は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以 上

# 株主総会参考書類

## 第1号議案 剰余金の処分の件

当社は、企業価値の向上により株主価値を高めることを経営の重要課題として認識しており、業績を向上させ財務体質の強化を図ることにより安定した配当をおこなうことを基本方針としております。

当期の期末配当につきましては、上記の方針及び当期の業績、経営環境などを考慮し、剰余金の処分につきましては以下のとおりといたしたいと存じます。

### 期末配当に関する事項

#### (1) 配当財産の種類

金銭

#### (2) 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき8円 総額 72,013,664円

これにより年間配当金は、中間配当金（1株につき3円）を含め、1株につき合計11円となります。

#### (3) 剰余金の配当が効力を生じる日

2020年5月25日

**第2号議案** 取締役（監査等委員である取締役を除く。）3名選任の件

本定時株主総会終結の時をもって、取締役（監査等委員である取締役を除きます。以下、本議案において同じです。）4名全員が任期満了となります。

つきましては、経営機構改革を実践し、取締役会において戦略的かつ機動的に意思決定がおこなえるよう1名減員し、取締役3名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関し、監査等委員会は特段の意見がない旨を確認しております。

取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号                                                                                                                                                                                                               | 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                                                       | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                  | 所有する<br>当社株式の数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 1                                                                                                                                                                                                                   | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">再任</div><br><small>のみず しげあき</small><br><b>野水重明</b><br><small>(1965年10月13日生)</small> | 1989年3月 当社入社<br>2004年3月 当社海外営業部部长<br>2005年3月 当社営業本部副本部長<br>2007年6月 当社取締役営業本部副本部長<br>2009年10月 株式会社双栄 代表取締役(現任)<br>2010年6月 当社専務取締役経営企画室室長 兼<br>輸出管理室室長 兼 情報管理部部長<br>2011年6月 当社代表取締役社長(現任)<br>2014年4月 双鳥電器(深圳)有限公司 董事<br>2017年5月 双鳥電器(深圳)有限公司 董事長 | 269,300株       |
| <p><b>【取締役候補者とした理由】</b></p> <p>野水重明氏は、当社の海外営業・国内営業の管理職に就き、2011年6月に当社代表取締役社長に就任して以来、社業を牽引し、これまでに培った経営全般に関する知識と経験により、全役職員に対してリーダーシップを発揮しております。今後も当社の経営における重要な意思決定と業務執行の監督に重要な役割を果たすことに適応であると判断し、引き続き取締役候補者いたしました。</p> |                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                |                |

| 候補者<br>番号                                                                                                                                                                                               | 氏 名<br>(生年月日)                                                                                                                              | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 所有する<br>当社株式の数 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 2                                                                                                                                                                                                       | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">再任</div> さとう つとむ<br>佐藤 勉<br>(1958年10月31日生) | 1979年3月 当社入社<br>1994年3月 当社生産管理部部長<br>2007年7月 当社開発・生産本部副本部長<br>2008年6月 当社取締役開発・生産本部副本部長<br>2011年6月 当社常務取締役開発・生産本部副本部長<br>2012年3月 当社常務取締役生産本部本部長<br>2014年3月 当社常務取締役品質生産管理本部本部長<br>2014年8月 当社常務取締役開発企画本部本部長<br>兼 開発生産本部副本部長<br>2015年3月 当社常務取締役開発生産本部本部長<br>2016年3月 当社常務取締役開発生産本部本部長<br>兼 開発企画本部本部長<br>2017年3月 当社常務取締役開発生産本部本部長<br>2017年5月 当社専務取締役開発生産本部本部長<br>2020年1月 双鳥電器(深圳)有限公司 董事<br>2020年3月 当社専務取締役開発生産本部管掌役員<br>兼 品質改革本部本部長(現任)<br>2020年3月 双鳥電器(深圳)有限公司 董事長<br>(現任) | 28,400株        |
| <p><b>【取締役候補者とした理由】</b></p> <p>佐藤勉氏は、当社において長年にわたり生産管理等、当社内の幅広い部門の管理職に就き、現場に精通した豊富な経験・知識と高い専門能力を有しております。加えて2008年6月からは取締役として当社経営を担っております。今後も当社の経営における重要な意思決定と業務執行の監督を十分に担える人物と判断し、引き続き取締役候補者といいたしました。</p> |                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                |

| 候補者<br>番号                                                                                                                                                    | 氏 名<br>(生年月日)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 略 歴、当 社 に お け る 地 位 及 び 担 当<br>( 重 要 な 兼 職 の 状 況 )                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 所 有 す る<br>当 社 株 式 の 数 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 3                                                                                                                                                            | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">再任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社外</div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <small>かとう よしたか</small><br/> <b>加藤善孝</b><br/> <small>(1959年8月17日生)</small> </p> | <p>1983年10月 プライスウォーターハウス<br/>(現 PwCあらた有限責任監査法人) 入所</p> <p>1988年3月 公認会計士登録 (現任)</p> <p>1990年10月 フィデリティ投資顧問株式会社<br/>(現 フィデリティ投信株式会社) 入社</p> <p>1994年5月 山田会計事務所 (現 税理士法人 山田<br/>&amp;パートナーズ) 入所</p> <p>1999年11月 優成監査法人 (現 太陽有限責任監査<br/>法人) 代表社員</p> <p>2002年3月 同監査法人 統括代表社員</p> <p>2017年1月 同監査法人 会長代表社員</p> <p>2017年6月 アルフレッサホールディングス株式会社<br/>社外監査役 (現任)</p> <p>2018年7月 株式会社Crowe ProC.A<br/>代表取締役社長 (現任)</p> <p>2019年5月 当社社外取締役 (現任)</p> | —                      |
| <p><b>【社外取締役候補者とした理由】</b></p> <p>加藤善孝氏は、公認会計士として、財務・会計面で高い専門性を有しております。会計の専門家として客観的及び中立的な立場に立って、当社の経営における重要な意思決定と業務執行の監督を十分に担える人物と判断し、引き続き社外取締役候補者いたしました。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                        |

- (注) 1. 上記の各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 加藤善孝氏は、社外取締役候補者であります。
3. 当社は、加藤善孝氏との間で、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としており、加藤善孝氏の再任が原案どおり承認された場合は、加藤善孝氏との当該契約を継続する予定であります。
4. 加藤善孝氏は、現在、当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって1年となります。

### 第3号議案 監査等委員である取締役3名選任の件

本定時株主総会終結の時をもって、監査等委員である取締役3名全員が任期満了となります。つきましては、監査等委員である取締役3名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案につきましては、監査等委員会の同意を得ております。

監査等委員である取締役候補者は次のとおりであります。

| 候補者番号                                                                                                                                                                                                                                                          | 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 所有する<br>当社株式の数 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 1                                                                                                                                                                                                                                                              | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">再任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">社外</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">独立</div><br><small>こまみや ふみひろ</small><br><b>駒宮史博</b><br><small>(1952年5月3日生)</small> | 1985年7月 福井県小浜税務署長<br>1986年7月 大蔵省主税局国際租税課課長補佐<br>1988年5月 JETROサンフランシスコ事務所<br>駐在員<br>1991年7月 国税庁調査査察部調査課課長補佐<br>1994年7月 新潟大学大学院・法学部 助教授<br>1997年7月 新潟大学大学院・法学部 教授<br>2005年2月 弁護士登録（現任）<br>2005年2月 駒宮法律税務事務所開設 所長（現任）<br>2017年5月 当社社外取締役<br>2018年4月 新潟大学 名誉教授（現任）<br>2018年9月 青山学院大学大学院 会計プロフェッ<br>ション研究科 特任教授（現任）<br>2019年5月 当社社外取締役〔監査等委員〕（現任）<br>2019年5月 双鳥電器(深圳)有限公司 監事（現任）<br>2019年5月 株式会社マインツ 監査役（現任）<br>2020年4月 事業創造大学院大学特任教授（現任） | —              |
| <p><b>【監査等委員である社外取締役候補者とした理由】</b></p> <p>駒宮史博氏は、行政機関・JETRO勤務において培った経験・見識を有するとともに、弁護士・大学教授として法律・税務、特に国際税務に関する高い見識を有しております。同氏は社外取締役となること以外の方法で会社経営に関与したことはありませんが、これらの経験を活かして客観的及び中立的な立場から意見を述べ、監査等委員である取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、引き続き監査等委員である社外取締役候補者といたしました。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                |

| 候補者番号 | 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 略歴、当社における地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                                       | 所有する<br>当社株式の数 |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 2     | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">社外</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">独立</div><br><br><small>しまだ まさずみ</small><br>島田正純<br>(1956年12月23日生) | 1982年3月 島田印刷紙工株式会社入社<br>1989年4月 同社常務取締役<br>1997年2月 同社代表取締役(現任)<br>2004年6月 当社社外監査役<br>2016年5月 当社社外取締役[監査等委員](現任)     | 2,000株         |
|       | <b>【監査等委員である社外取締役候補者とした理由】</b><br>島田正純氏は、会社経営者としての豊富な経験と高い見識を有しております。これらを活かして客観的及び中立的な立場から意見を述べ、監査等委員である取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断し、引き続き監査等委員である社外取締役候補者としていたしました。                                                                                                                                                      |                                                                                                                     |                |
| 3     | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">再任</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">社外</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">独立</div><br><br><small>こむら たかし</small><br>小村隆<br>(1967年2月4日生)     | 1994年11月 司法試験合格<br>1997年4月 弁護士登録(現任)<br>1997年4月 伴法律事務所入所<br>2002年10月 小村法律事務所開設 所長(現任)<br>2019年5月 当社社外取締役[監査等委員](現任) | —              |
|       | <b>【監査等委員である社外取締役候補者とした理由】</b><br>小村隆氏は、弁護士としての豊富な経験と特に企業法務に関する高い見識を有しております。同氏は社外取締役となること以外の方法で会社の経営に関与された経験はありませんが、これらを活かして客観的及び中立的な立場から意見を述べ、監査等委員である取締役としての職責を適切に遂行できるものと判断し、引き続き監査等委員である社外取締役候補者としていたしました。                                                                                                       |                                                                                                                     |                |

- (注) 1. 島田正純氏は島田印刷紙工株式会社の代表取締役であります。当社は島田印刷紙工株式会社との間に材料仕入等の取引関係がありますが、その取引金額は僅少であります。
2. その他の各候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
3. 駒宮史博氏、島田正純氏及び小村隆氏は、社外取締役候補者であります。
4. 当社は、駒宮史博氏、島田正純氏及び小村隆氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、3氏とも法令が定める額としており、3氏の再任が原案どおり承認された場合は、3氏との当該契約を継続する予定であります。
5. 駒宮史博氏は、現在、当社の監査等委員である社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって3年(うち監査等委員である社外取締役としての在任期間は1年)となります。
6. 島田正純氏及び小村隆氏は、現在、当社の監査等委員である社外取締役であります。両氏の監査等委員である社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって島田正純氏が4年、小村隆氏が1年となります。
7. 当社は、駒宮史博氏、島田正純氏及び小村隆氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。3氏の選任が原案どおり承認された場合には、3氏を引き続き独立役員とする予定であります。

#### 第4号議案 補欠の監査等委員である取締役1名選任の件

本定時株主総会の開始の時をもって、2019年5月29日開催の第57期定時株主総会において選任いただいた補欠の監査等委員である取締役井筒一郎氏の選任の効力が失効しますので、改めて、監査等委員である取締役が法令に定めた員数を欠くことになる場合に備え、監査等委員である取締役の補欠として、予め補欠の監査等委員である取締役1名の選任をお願いするものであります。なお、本議案につきましては、監査等委員会の同意を得ております。

補欠の監査等委員である取締役の候補者は次のとおりであります。

| 氏名<br>(生年月日)                                                                                                                                                                                                                       | 略歴、地位及び担当<br>(重要な兼職の状況)                                                                 | 所有する<br>当社株式の数 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社外</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">独立</div> </div><br>いづつ いちろう<br>井筒 一郎<br>(1970年1月13日生) | 2003年12月 税理士試験合格<br>2004年1月 田中税務会計事務所入所<br>2006年9月 税理士登録(現任)<br>2018年8月 井筒田中会計開設 所長(現任) | —              |
| <p><b>【補欠の監査等委員である社外取締役候補者とした理由】</b></p> <p>井筒一郎氏は、税理士としての経験と特に税務に関する高い見識を有しております。同氏は過去に会社経営に関与された経験はありませんが、税理士事務所の所長を務めており、これらの知識、経験を活かして客観的及び中立的な立場から意見を述べ、監査等委員である取締役としての職責を適切に遂行できるものと判断し、補欠の監査等委員である社外取締役候補者といいたしました。</p>     |                                                                                         |                |

- (注) 1. 候補者と当社との間には特別の利害関係はありません。
2. 井筒一郎氏は、補欠の社外取締役候補者であります。
3. 当社は、井筒一郎氏が監査等委員である取締役に就任した場合、同氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結する予定であります。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額いたします。
4. 当社は、井筒一郎氏が監査等委員である取締役に就任した場合、同氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出る予定であります。

以 上

メ モ

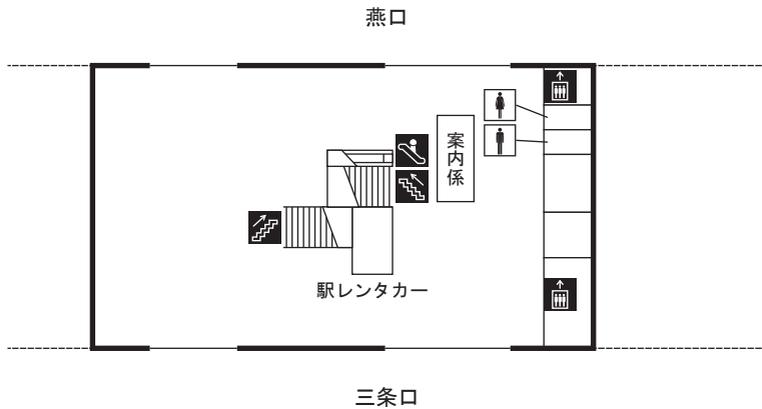
Handwriting practice lines consisting of 18 horizontal dashed lines.

メ モ

A series of horizontal dashed lines for handwriting practice, consisting of 18 lines.

## 【送迎車のご案内】

「JR燕三条駅」1階



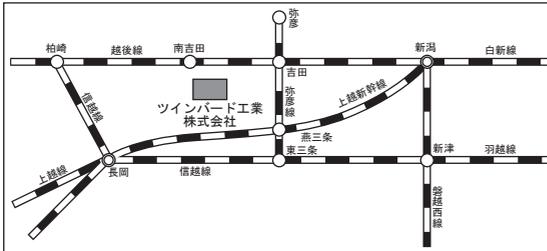
- JR燕三条駅より送迎車を運行いたします。  
(燕口に配車します。)  
構内エスカレーターの1階付近に係員がおります。  
送迎車乗り場までご案内いたします。
- 出発時刻は、9時10分です。

# 株主総会会場ご案内図

会場 新潟県燕市吉田西太田字潟向2084番地2  
ツインバード工業株式会社 本社 大ホール(3階)



広域案内図



お車でご来場の株主様へ  
当日は会場構内に駐車場を用意しております。  
入口に係員がおりますので、案内に従ってご入場ください。

交通 北陸自動車道 三条・燕インターよりお車で約15分  
JR 上越新幹線 燕三条駅よりお車で約15分  
JR 越後線 吉田駅よりお車で約10分

「JR 燕三条駅」からの送迎車を用意しました。詳細は前ページをご覧ください。